

令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(7) 消防力・地域安全の充実	消防部長 豊田 賢治
目指す姿	市民が、生命・身体・財産を火災等から守られ、安心して暮らしています	
関連する分野別計画	第3次亀山市消防力充実強化プラン	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	  
SDGs推進の考察	各種災害に的確に対応するため、研修派遣による知識、技術の獲得や、施設等の更新を行ったほか、救命率向上のため、応急手当普及啓発に努めた。また災害対応力向上のため、消防指令業務共同運用に向け、事業を着実に推進した。さらに交通安全対策事業や、防犯灯新設等に対し財政支援を行ったほか、犯罪被害者等支援施策集を作成し職員に周知した。今後も、関係団体と連携し安心して暮らせるまちづくりをめざす必要がある。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	上段: 予算額	実績・成果等
		下段: 決算額	
①	津・鈴鹿・亀山3市消防指令業務共同運用事業	3,969	消防指令センターの共同運用に向けた実施設計が完了した。また、多岐にわたる専門性の高い事務を3市で調整するため、消防通信指令事務協議会に3つの分科会を設置し、検討を進めた。
		3,901	
①	一般管理費(常備消防費)	38,621	救急救命士の継続的な養成をはじめ、消防中学校及び三重県消防学校各課程に職員を派遣し、資質向上に努めた。
		36,574	
①	活動費	52,741	団員が使用する救命胴衣を更新するなど、個人装備の充実を図ったほか、災害出動をはじめ、市民への救急法指導、防火広報の実施などの活動に対して、報酬等を支給した。
		50,830	
①	防火水槽整備事業	15,566	建築物の密集状況及び地域間のバランス等を勘案した上で、防火水槽1基を新設したことで、消防水利の充足率が向上した。
		14,169	
①	防災施設整備補助金	1,819	11自治会に対して、補助金を交付することで、自治会の初期消火対応力の向上につながった。
		1,818	
①	車両整備費(消防団車両)	17,050	消防団第6分団小川車庫及び第10分団白木一色車庫の消防団車両2台を更新したことにより、災害出動時の迅速、的確性が増し、より充実した活動が行える体制が構築できた。
		17,050	
④	交通安全対策事業	604	亀山地区交通安全協会へ400千円、交通安全対策協議会へ200千円の財政支援を行った。全国交通安全運動を警察及び関係機関等と連携・協力し、交通事故防止に努めた。
		600	
④	防犯対策事業	29,208	防犯カメラの維持管理を行った。また、防犯灯補助交換(217件 3,954,800円)、新設(34件 653,800円)及び管理費補助金(193件 16,104,632円)を交付した。
		28,338	
④	施設整備費(交通安全施設費)	15,000	防護柵や区画線等の整備により交通環境の改善を行い、交通事故防止と交通の円滑化が図れた。各自治会からの要望の他に、通学路交通安全プログラムにより市内の小・中学校の通学路を対象に教育委員会、公安委員会等と連携して対策必要箇所について対応できた。
		14,520	
④	犯罪被害者等支援事業	1,160	犯罪被害者の立場に立てるよう、三重県協力のもと、市職員向けに研修会を実施した。また、他部署の協力を得て、職員用マニュアル「犯罪被害者等支援施策集」を作成した。
		154	

太字:主要事業

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	救急救命士等の有資格者の配置率	%	91.8	R3	95.9	100		100
2	防火対象物への立入検査件数	件	160	R3	200	248		260
3	交通事故死傷者数	人	65	R2	101	117		50人以下
4								
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目	重要度	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 緊急時の消防・救急体制が整っている	重要度	1.59	1.63		前回と比較し、すべての項目において重要度が増しており、市民ニーズの高さがうかがえる一方で、満足度についても各項目で上昇または改善がみられる。消防・救急体制については、継続して着実に施策を進めるほか、防犯・交通安全対策については、警察署や関係団体と連携して周知啓発に取り組んでいるが、今後も様々な機会を通じて、満足度向上に努める。
	満足度	0.36	0.49		
2 犯罪を防ぐ対策が整っている	重要度	1.54	1.55		
	満足度	▲ 0.25	▲ 0.18		
3 交通安全の対策が整っている	重要度	1.48	1.51		
	満足度	▲ 0.21	▲ 0.06		
4	重要度				
	満足度				

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 消防体制の充実強化	計画的な人材育成、消防団の装備等の更新を進めたほか、指令業務共同運用に係る実施設計が完了した。今後は指令業務共同運用事業等を着実に推進する。
② 防火対策の強化	事業所等への立入検査数を増やし、防火管理体制の不備や消防用設備の未設置等に対する指導を行った。今後は、重大違反のある防火対象物への是正指導を強化する。
③ 救命率の向上	救急ワークステーション等へ派遣し、救急隊員の質の向上を図ったほか、救急講習を通じて応急手当の普及啓発に努めた。今後、新たな救急隊員教育に取り組む。
④ 防犯・交通安全対策の推進	関係機関との連携による防犯活動や交通安全活動に取り組んだ。また、地域の防犯環境の充実のため、防犯カメラ設置に対する補助金制度(R6.4～)を整備した。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

消防体制の充実強化では、消防職員に必要となる資格取得や資質向上を図るため各種研修派遣を行うとともに、自治会が設置する消防用設備に対する費用を一部補助したほか、耐震性防火水槽1基を新設したことなどにより、災害対応体制を充実させることができた。また、消防庁舎等の空調設備を更新したことにより長寿命化を図ることができた。さらに、津市、鈴鹿市との消防指令業務共同運用については、今後の整備工事に向けた実施設計を完了し、専門性の高い事務を3市で調整するため、津市、鈴鹿市及び亀山市消防通信指令事務協議会に3つの分科会を設置し、各分科会において諸課題について詳細な検討を進めることができた。一方、消防団については、救命胴衣を更新し、個人装備の充実を図ったほか、老朽化した車両2台を更新し、消防団体制の充実を図ることができた。防火対策の強化については、火災等の災害を未然に防止するため、事業所等に対する立入検査を実施し、昨年度と比較して成果指標に掲げる目標値に近づけることができた。しかし、目標達成には至らなかったため、より一層の推進が必要である。救命率の向上については、研修派遣等を通じて救急隊員の知識、技術の向上を図ったほか、市民に対しては救急講習を通じて応急手当の普及啓発を進めることができた。防犯・交通安全対策の推進では、警察署、交通安全協会、防犯協会や鈴鹿亀山消費生活センター等の関係機関と情報共有及び連携して啓発活動等に取り組んだが、メーカーの自動車安全装置機能は充実してきているものの、コロナ禍後の社会活動が活発化し、相対的に交通事故は増加した。また、犯罪被害者等への支援に細やかな対応を行うための職員マニュアル「犯罪被害者等支援施策集」を作成して庁内周知を行った。地域の体感治安向上のため、かねてより検討を重ねてきた「自治会が設置する防犯カメラの設置補助金」について、補助金要綱を作成するとともに、令和6年度予算に反映した。

B

まずは進んだ

今後の展開方針

消防体制の充実強化ほか各施策の推進では、消防力充実強化プランに掲げる施策に着実に取り組み、消防指令業務共同運用では、3市で設置した消防通信指令事務協議会に参画し整備工事等を進めるほか、消防庁舎機能強化のため自家発電設備の改修を進める。消防団については、個人装備更新を進めるほか、組織再編に向け管轄区域見直し等を消防団幹部と協議する。さらに救命率の向上では、救急救命士1名を三重大学医学部附属病院へ派遣し、3次医療機関との関係性構築等を進める。防犯対策では、鈴鹿亀山消費生活センターや防犯関係団体との連携を深め、新たな種類の犯罪情報共有や周知啓発に取り組む。また、体感治安向上に向けた対応として、当面は防犯灯のLED化促進や地域防犯カメラ設置の支援を行う。交通安全対策では、警察署を中心に市交通安全対策協議会や地域活動団体、協力企業とさらなる情報共有や啓発活動の活性化を図る。